

オハイオ州立大学語学教育体験

日本大学法学部准教授

于 曉飛

2002 年度奨学生

2010年3月2日から2011年2月28日まで、本部の海外派遣研究員として、「欧米における語学教育の現状調査」「米国原住民の伝承調査」の目的で、アメリカのオハイオ州コロンバスにあるオハイオ州立大学に留学いたしました。オハイオ州立大学は語学教育法の研究において全米でトップといわれ、教育法博士号授与している唯一の大学でもあります。

初めてこの地を踏んだ時、私を迎えたのは肌を刺す冷たい風と真っ白な雪でした。一瞬、まるでシベリアにきたのではないかと思っただけです。

学生数6万を超え全米一大きいと言われるオハイオ州立大学は、広大なキャンパスと立派な図書館、学生活動館、幾つもの体育館に加え、医療先端技術から文学言語までさまざまな分野を持つ総合大学です。

私が所属した学科は東アジア言語文学学科で、Hagertyhallビルにあります。この学科には教授18名、講師11名、学生助教(チューター)35名がいて、東アジア文化、言語学、文学、教育学の分野で様々なコースや講義を設けています。大学からは教授用のオフィスを譲り受け、調査研究の様々な面で便宜を図って頂くなど、この学科の一員として非常に快適な環境で1年に及ぶ

研究を順調に進めることが叶いました。

1. 米国における中国語教育の現状について

中国の経済発展に対応するため、アメリカは中国語に堪能な人材が必要と考えています。2006年1月5日、ブッシュ大統領は「National Security Language Initiative(国家安全言語項目)」を宣言し、五つの主要外国語に堪能な人材を育成することを決めました。その一つが中国語です。

この5年間に中国語教育は全米で拡大し続けています。米国社会にとって中国語と中国文化が一層重要であることを全米に喚起するために、オバマ大統領は年間10万人もの学生を中国に留学させることを宣言しました。このように中国熱は今や全米を席捲しています。米国アジア教会によると、米国の小学校での中国語クラスはここ数年で倍増したそうです。更に、昨年5月、オレゴン州議会がオレゴン州内の各公立小中学校で中国語の授業を開くことを承認しました。加えて、昨年までに全州で40余りの小中学校に中国語授業を開設しました。(中文教学論壇 2010)

この降って沸いたような中国語熱は、それまで平穏だった教育者にあらたにチャレンジすべき課題を突きつけたのです。その

課題とは、どのような方法で教えるか、教材開発、教師の養成、IT教育および教育法などです。これらの課題の解決に向けて2010年4月24日、ワシントンで開催した全米中国語教育年次大会において、さまざまなテーマでの議論が展開されました。私はこの学会に参加すると共に期間中ワシントンにある英才教育学校も見学して来ました。そこでは幼稚園から中国語勉強を始め、現在小学3年生まで中国語クラスを続けることができますが、将来は高校までのクラスを開設する予定です。

このようにアメリカでは中国語教育のための人材の必要性を背景とした熱気を強く感じます。

2. オハイオ州立大学における中国語教育 (修士課程)

(1) 中国語強力推進計画 (Chinese Flagship Project)

初めて中国語クラスを見学した時、米国の学生達の話す流暢な中国語を聞いて非常に驚きました。その授業はちょうどコースの中間発表会で、学生は一人5分間で自分の研究テーマについて中国語で発表することになっていました。聞き手の殆どは中国から来た教師や研究者です。学生の発表への政治・文化・経済に関する質問もすべて中国語ですが、それを的確に聴き取り回答する学生達の高い能力に驚かされました。彼らはたしかに多くの資料を読み種々の情報を集めてはいますが、どうしたらこのレ

ベルまで勉強ができ上手く話せるようになるのか、私は驚かざるを得ませんでした。

(2) 修士課程

オハイオ州立大学東アジア言語文学学科は、6年前に「中国語強力推進計画 (Chinese Flagship Project)」を設け、毎年全米から公募で12名の学生を厳選して教育する2年間の修士課程です。この12名を選ぶ基準は中国語の実力にあります。なぜなら修士課程での授業は全て中国語で行われるためです。

まず1年目は大学で先生の指導を受け、研究テーマに関する計画を立案し、確定します。2年目、中国の青島に赴き、自分の研究テーマと関連の深い企業や社会で実習を重ねます。私が出会ったこの12名から話を聞いたところ、殆どが1年生から中国語の勉強を始め、中国へは3ヶ月から6ヶ月くらい留学した経験をもつことがわかりました。

(3) 科目について

彼らが一週間に受ける科目は、中国言語的歴史、中国メディア、現代中国新聞、古代漢語(論語)現代漢語です。それに加え、中国語文章を読み自分の意見等を提出するなど、毎週提出しなければならないレポートは3通もあり、学生達は大変忙しい毎日を送っています。

(4) 研究テーマについて

1年目には重要なことは、早めに研究テーマを決定することです。去年の学生の研究テーマは環境汚染、国際婚姻、非物質文

化の保護、計画生育、日中朝関係等の中国に関する研究でした。そのために、授業以外の時間で、研究テーマについて調査、資料収集、指導教師との面談等の日々が続きます。

(5)教材について

教科書は全て中国語の原本を用います。例えば中国言語の歴史の教科書には周有光著「中国語文的時代演進」や「論語」、中国語教材として裘山山著中編小説「春草」と同名小説のテレビドラマなどがあります。小説を通して中国語を勉強するとともに中国社会の現状、思考、風俗習慣、精神面など様々な角度から理解を深めます。小説「春草」と「論語」の授業を担当している李敏儒の話によれば「原汁原味」での中国語学習を貫く、ということになります。

(6)授業の進め方

①学生は小説を読み授業中に質問点を提出、先生はそれに回答します。

②小説の原文とテレビドラマの画面構を比較し、自分の意見について発表します。

③小説を真似して自分で小説を書き、それを発表します。

④小説の内容について自分の意見を述べます。

この授業に出ている学生の一人はこう語りました。

「小説中に沢山の比喩や新しい単語が出てくるので、文章を書いたり本を読むと非常に勉強になります。日常会話にはまず使わない表現でも、先生は授業中にその文型表

現を取り上げ説明してくれるので、直ぐ理解が出来、徐々に複文を作れるようになり、文章を書くときも、話すときも表現は豊かになりました。」

以上はオハイオ州立大学「中国語協力推進計画」(修士課程)教育の現状ですが、彼らは大学1年生から中国語の勉強を始め、修士課程に入ってこんなにも中国語のスキルが上達するのを見て、私はその1年生の基礎教育にとっても興味を持ちました。

3. オハイオ州立大学東アジア言語文化系の基礎教育

(1)体演(実演)文化教育法

アメリカの新学期は9月です。私は半年延長の許可を得て、9月からある新入生コースを3ヶ月間見学しました。驚いたことに、大学1年生での初めての中国語授業からもう既に中国語を使っているではありませんか。その指針となるのが、オハイオ州立大学東アジア言語文学系教授 Galal Walker が創立した「The Pedagogy of Performing Another Culture」つまり「体演文化教育法」です。体演の語意は英語の performance がその原意で、日本語なら片仮名で表音できその原意のまま使えますが、中国語には該当する単語がないため、中国語の体験+演練=体演という新しい単語が生まれ、英語の performance の意味を表しました。

体演教育法は言語と文化の関係を中心として、一つ外国語(目標語)を修得するに

は、その目標語と関係ある文化を理解し、その目標語文化を体演しながらその目標語を修得すべしとする理論です。

体演文化教育の理念は、学生が中心となって (Student Centered)、目標語 (Target language) を使って教育を行い、学生に体演しながら勉強することにあります。中国語だけを使った授業がどのようなものか、関心を強くした私はその内容について調べてみました。

(2)教科書

1年生のクラスは年間3冊の教科書を使います。会話教科書は会話や例文のみで、A4サイズで400ページ程です。学生の勉強はこの本に基づいて、付属のDVDとCDで自習します。プログラムを使用して、どのように自習を進めればよいか、その方法を説明しています。発音から始まり、文法まで詳しく教えています。学生達は教室の代りに自分の都合のよい場所、時間に自習することができます。48分の授業に備えて全ての学生は大体2時間くらい自習し、授業中やることを全部準備できるので、教室では先生が設定した場面の中で会話の体演をします。授業中、教科書を開いて見る学生は一人もいません。授業前の自習において何か疑問があれば、学生は英語で先生に説明します。文法の説明は4回の授業がありますが、その内、1回だけ英語での説明を受けることができます。

(3)先生の役割

先生の役割はまず学生達にその中国文化

の中で中国語を修得する環境を与えることにあります。会話と関係ある中国文化などを工夫して、様々な場面や環境をポイントで表現するので、学生達は中国文化圏に入ったような環境で模擬体演することができます。例えば、飛行機中の場面を設定し、あたかも飛行機の中であるかのように実演します。

また、学生に週1回スケジュール表を渡します。学生はそのスケジュールに従い、毎回授業の内容を自習、予習し、授業に出て、教室で実際に演習します。先生は学生達が演じる過程である問題点を指摘して、発音の矯正と採点します。毎回授業では学生に点数をつけ、週1回PCで公表し、学生は自分の点数を見て自分の実力をチェックする事ができます。

4. 夏休みの教師養成の集中講座

米国政府の計画では2015年までに全米で中国語を勉強する人数は75万人に達すると想定されており、その場合、約1万人の講師が不足します。そのため、中国語教師の早期育成が重要と考えられています。

2010年の夏、私はオハイオ州とハワイ大学で行なわれた「教師養成の集中講座」に参加しました。

オハイオ州立大学の「語学教師養成講座」は夏休みの7週間にわたる集中講座です。その講座では performance という教育法を中心においています。この集中講座の特徴は、集中講座と同時に学部の夏休み言語強

化クラスを開設したことです。参加者は毎日午前中に2時間教育法理論を学び、参加者を教師と学生の役割を分担して1時間半の模擬教育を行います。その後お互いに授業の良い点と不足点に評価を付け合います。集中講座修了後、参加者は講師の資格を得て、州立大学及び他大学の語学講師になります。

ハワイ大学の教師訓練講座は24日間で、同時にハワイ大学の中国語夏のキャンプが行なわれ、全国から中学生20人～30人が参加します。教師訓練に参加している参加者は、この夏のキャンプの学生達の授業のシラバスの設定、内容の選択、授業活動の手配、教室管理、学生への評価つけなど様々な活動に参加、体験しています。

東洋の教育方法と異なり、アメリカの中国語教育は様々な面から研究される西洋固有の教育方法です。その方法を日本の語学教育と比較することが、今後の課題になると思います。

5. 恩返し

私はオハイオ州立大学からとても優遇され、大学の同僚の教員として接してくれました。その恩返しのために、私も学校のためにできる限り精一杯の貢献をしました。中国語教材のために小説「春草」、と「論語」を録音しました。また学生達の発音指導を引き受け、私が指導した学生は全米の中国語コンテストで1位、2位をとりました。世界国際大学生「漢語橋」のコンテストで

も2位と3位を獲得することができました。またあるクラスで私は言語表現を担当しましたが、期末の報告発表会で、私が指導した学生達の中国語は以前より極めて上達したとの評価を得て、同僚達は私の功績を認めてくれました。「于先生は私たち学科の一員だ」と言われました。

6. 終りに

日本への帰国時限が迫ってきて、1年間本当にあつという間のことでした。他方、この1年間は語学教育に加え原住民の調査も進んでいました。ニューヨークに住んでいるホジェン族の第一研究者凌純声の娘凌曼立氏に会い、資料を整理収集し、自然史博物館でホジェン族に関する現物の所蔵を確認しました。

文学人類学の授業で「ホジェン族文化と言語」を自分の経験を踏まえて大学院生に1度講義をしました。とても充実した1年でした。大学の同僚達、学生達との別れるのが悲しく私は何度も泣いてしまいました。

3月11日の深夜、地震で帰宅できなかった私は、研究室のパソコンを立ちあげたところ、オハイオ州立大学にいる先生方、私の教え子達から「于先生は無事ですか？」「誰かが于先生日本の携帯番号を知っている？」のメールが沢山来ていました。私はまだ揺れている本館の研究室で、「私は無事だ、大丈夫ですよ」と返信しているうちに胸が熱くなり、思わず涙を流してしまいました。